

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年1月19日(月)

卒業前縁 〓 〓 〓 これから読書

卒業後の読書をごとうに進めていくか？読書量も大切ですが、それに併せて「書物のジャンル」の幅が重要になってきます。最近の子供は好きなジャンルばかりを集中して読む傾向が強くなり、読書の幅が狭くなりがちです。

現在の入試問題や面接、論文の傾向として、幅広く知識や自分自身の考えを問われることが多いのは周知の通りです。ちなみに私はどのような読書をしてきたか？それは、興味を持って取り組んだ活動に合わせた本を選び、読むことでした。釣りに興味があれば釣りの本、大河ドラマに興味をもったら歴史の本、カマクラに興味をもったら力マシ雑誌……。今考えてみると、その時々の自分の自身の体験と、より充実させるために本を読んでいたように思います。

最近の私の読書傾向が、色んな作者の本を読め、自分に言い聞かせる毎日ですが、どうしても共感できるものに偏ってしまいます。反省。

私の中学時代〓の部活

中学校では小学校と違って、かなりの時間と努力を費やすのが部活動です。しかも、そこでできる友達、長く付き合っていく仲間が多いような気がします。

気の合う仲間が多いと、最後まで続けることができます。3年間続けるということは、結構大変なことです。私の場合入部当初は先輩方から、かなり理不尽な指導も受けたように思います。それが原因で部活動をやめる仲間もいました。私は学校からの帰り道、同じ団地に住んでいた友達と先輩の愚痴を言いながら、ストレス発散しながら帰宅していたことを思い出します。また、星を見ながら帰ったり、将来のことをぼんやりと考えながら帰ったり、部活後の帰り道は貴重な時間でした。だから部活をしなさいというわけではありませんが、部活で学ぶものは大きいと思います。私の個人的な意見としては、部活はテニニアルスキルを学ぶことも多くなから、ヒューマンズキルを学ぶ絶好の場所だと思っています。

卒業前縁 〓 〓 〓 友達との日常が劇的に変わる日

卒業も現実味を帯びてきました。残り少ない小学校生活を、しっかりと味わいながら過ごして貰いたいものです。私も小学校の卒業式ははつきの覚えていたのですが、楽しかったという思い出があるからこそのことだと思います。

私は熊本市立城北小学校に入学しましたが、4年生からは麻生田小学校という新設校に通うことになりました。城北小学校がマンモス化したため、私は麻生田小学校に通うことになった訳です。麻生田小学校ができた場所はずもとで野原で、私もよく遊んでいたところでした。丈の高い草木が多く、また、大きな石も多かったように思いました。その土地を利用して、校舎、運動場ができた訳ですね。私は5年生の時に新校舎に入りましたが、その廊下の広さ、校舎の臭い、今でも何となく覚えていてます。しかし、運動場が大変です。私達の体育の時間は持久走が運動場作りでした。運動場は運動ができないので、ほぼ毎日草取りと石拾いをしていたことを思い出します。また、当時からけんやケカもしていました。けんや遊びの中でできた傷が、今子ども達に話すとこのネタになっています。何気ない日常がとても思い出深々、現在でも私の心の中にしっかりと残っています。しかし、あの当時の前と比べていた日常が、卒業式を境に劇的に変わります。卒業が近づくと、何となくこのことが分かります。一日一日を積み重ねるようになっていくことを思い出します。

シリーズ「自分を語る」〓008

玉名町小学校で仕事をさせて頂いた9年間は、私にとって掛け替えのない時間となりました。振り返ると、私は小学校の初任者研修が本格的にスタートした時代に黒川原支援学校(当時は養護学校)に採用されていました。つまり黒川原に小学校で必要なスキルを身に付ける研修を受けていませんでした。それを必死になって、また躍起になってスキルを学んだ9年間でした。玉名町小の前にお世話になった嘉島西小学校では、少しひねくれた考えを持っていた澤田でしたので「研修なんて俺には関係ない」なんて真剣に思っていましたから、教師としてのスキルが上がる訳がありません。そのような意味で玉名町小学校の9年間は、教師としての基礎は身に付かなかったかも知れません。

さて、教師の基礎を身に付けた(かもしれない)私、澤田は、玉名町小学校において文部科学省の体育入部ニ研究推進、あるいは学力充実研究推進のため、多くの研究授業をさせて頂いたり、玉名町教育研究所では生徒指導部を中心に指導法の研究をさせて頂いたり、充実した時間を過ごさせて頂きました。

平成16年度末、そろそろ異動を意識した澤田です。少々、異動に対する不安もあり、落書きがない日々を過ごしていました。何せ私は、16年の間に小学校の経験が3校しかなく、年齢は30代半ば、今後の自分に何が求められているのか全く分かりませんでした。から、自分に何が求められているのか、自分の価値と、それが解らないというのが、前に進みたい者にとっては不安でしかありませんでした。しかも、玉名町小学校での担任の経験は高学年しかありません。次の学校でも高学年とは限りませんので、ぼんやりとした不安が常に付きまとう状況が続きました。

いよいよ、異動発表の日が来ました。校長室に呼ばれ、校長先生に言われました。

「澤田先生、望まれての異動です。良かったですね。異動先は玉名市立伊倉小学校です。」

私には教職員は、発せられた辞令に「へい」でも返さず。私は元来「住めば都」的な性格で、色々な場所に慣れてきました。今も府本小学校へ楽しく、連日甲斐のある仕事をさせて頂いています。(出来ることならずっとここでもいいかななんて思っています。)(新任地、伊倉小学校ではこのような仕事ができるのでしょ、か、楽しみでもありました。程なくして、伊倉小学校へ挨拶にお邪魔しました。その時から、少々憂鬱な時間を過ごすことになりました。何故か、(つひ)